

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：民主主義と学問の歴史と未来 ILAS Seminar :History and Future of Democracy and Science			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	11(11)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	1共04		使用言語	日本語	
キーワード	民主主義 / 平和 / 歴史 / 記憶 / ジェンダー						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
<p>21世紀の社会は、これまでの価値観が揺らぐ中で深刻な分断を抱えている。民主主義の根幹をなす選挙に本来期待される機能は合意の形成であるが、近年では、マイノリティよりもマジョリティが優先されて当然との主張が目立ち始めている。そうした流れに対して学問的な立場から批判的な意見表明をしたときにも、異なる意見をもつ他者との溝がむしろ広がることすらみられる。そして、このような状況は今日では世界中で深刻化しており、民主主義と学問が社会の中で果たす役割を問い直すことが広く喫緊の課題となっている。</p> <p>この課題に取り組むにあたり、本演習では、歴史とその記憶のあり方に焦点を当てる。ウクライナとロシアのあいだで、パレスチナとイスラエルのあいだで争われている重要な問題が歴史であるように、過去をどのように認識するのかという問題は、社会の包摂と分断と密接に関わっているのみならず、未来をどのように構想するのかにもつながっている。</p> <p>演習の進め方としては、次のようにする。第1回から第10回までは、論文の輪読や担当教員による話題提供に基づく討論を行い(適宜発表準備の時間を確保する)、第11回からはグループごとの学生による発表を行う。発表のテーマは、グループの中で話し合って決定する。本演習のテーマに関連するものであれば、自由に決めてよい。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会や世界に対して歴史的な視点をもって向き合うことができる ・社会や世界の現状を認識し、柔軟かつ積極的に未来について考えることができる ・自らの考えを論理的に整理し、分かりやすく提示できる 							
【授業計画と内容】							
授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。							
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 現代日本の「原点」について 3. 歴史の中のミクロとマクロ 4. 戦争とジェンダー 5. 発表準備のためのグループワーク 							
ILASセミナー：民主主義と学問の歴史と未来(2)へ続く							

- 6．記憶の戦争
- 7．食と戦争
- 8．発表準備のためのグループワーク
- 9．学問とジェンダー
- 10．発表準備のためのグループワーク
- 11．発表・質疑応答
- 12．発表・質疑応答
- 13．発表・質疑応答
- 14．発表・質疑応答
- 15．フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点100点（報告の内容50点、演習中の発言や質問の内容40点、討論をめぐる態度・作法10点）で評価する。なお、演習は出席が前提となる科目のため、無断での、あるいは理由なき欠席は認めない。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・復習としては、毎回の授業で取り上げられたテーマや、もっと知りたいと思ったことなどについて自発的に探究すること。

・予習としては、グループ発表のために、どのようなテーマを選ぶのか、選んだテーマを深めるにはどのような文献や資料を利用すべきなのか、について自発的に探究すること。

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】